

令和 7 年度研究推進計画

学校名 学 校 名東広島市立御蘭宇小学校
学 校 長 石 川 真 紀

1 研究主題，研究内容・方法等について

【研究主題】

一人一人が「何がわかった！できた！深まった！」と言える子どもの育成
～「聴いて問い返す」「聴いて考える」場の設定を通して～

(1) 【主題設定の理由】

① 昨年度の課題

昨年度の研究では，児童が「わかった！できた！深まった！」を実感する授業づくりに取り組んだ。特に，「伝え合う」に重点を置き，対話を通して学びを深めるということ意識した授業づくりを目指した。また，国語科や算数科だけでなく，その他の教科にも「学びの 3 ステップ」を取り入れ，「考える」「伝え合う」「見付ける」の学習活動を行いながら学ぶシステムを授業の中に位置付けた。また，各学年で年に一回 ICT を取り入れた研究授業を実施し，ICT 活用の日常化を推進した。伝え合いの場面で ICT を活用したり，パンフレットやリーフレットの成果物を作ったりするなど，効果的な活用の仕方について考え，児童の学習活動がより充実したものになるようにした。

そのことにより，次の二点が成果として挙げられた。一つ目は，児童が伝え合いを通して自分の考えが明確になり変容したことで学びの深まりを実感できた点である。二つ目は，児童の ICT の技能が向上し，児童が学習に進んで ICT を活用できるようになった点である。

その一方で，対話活動において，考えを変容させたり再構成させたりするといった具体的に深まった姿を明確にすることや，比較したり関連付けたりするといった聴き方について課題がある。また，ICT 活用についても，対話活動における効果的な活用の仕方について改善の余地がある。また，ICT の技能の向上は見られたものの，授業の中で作業に手間取るなど，技能面の指導についても課題が残っている。

② 研究主題設定の意図

今年度も，引き続き児童が「わかった！できた！深まった！」を実感する授業づくりを実践していく。特に，「伝え合う」に重点を置き，対話を通して学びが深まるということ意識した授業づくりを目指していく。児童同士が，考えを比較し関連付けながら，自己の考えの変容や新たな考えの発生を期待し，学習の深まりを実感できるようにしていきたい。また，学びの 3 つの学習活動を工夫することで，児童の学力向上につなげていきたい。

③ 目指す姿

児童は一人一人が自分で「考えを持ち」，それを「伝え合い」，その中から最適な答えを「見付ける」。伝え合う要素となる，声の質や大きさ，一つの問いでいろいろな話ができるなどの必要な力を身に付け，テーマに沿って対話し，学びの深まりが自覚できる児童の姿を目指す。

④ 教師の工夫

「児童の深まった姿」を明確にして，「考える」「伝え合う」「見付ける」学習活動を授業に位置付け，児童が主体的に学習に取り組むしかけを工夫することで，ねらいを達成するための授業づくりや話を進んで聴くための指導に取り組んでいく。

(2) 【研究仮説】

教師が授業の中に「考える」「伝え合う」「見付ける」の3つの学習活動を取り入れ、「聴いて問い返」したり、「聴いて考え」たりする場を意識して設定することで、児童が学びに向かう授業づくりを行えば、児童は相手の話を進んで聴き、誰もが「何がわかった！できた！深まった！」と言える児童に育つであろう。

(3) 【研究内容】

ア 「考える」「伝え合う」「見付ける」の学習過程を示しながら活動の工夫を行う。

イ 「聴いて問い返す」「聴いて考える」場を設定することで児童が学びの深まりを感じられるようにする。

(4) 【検証の視点とその指標】

検証の視点	方法	検証の指標
ア「考える」「伝え合う」「見付ける」の学習過程を示しながら活動の工夫を行っているか。	・教師の事後研修の振り返り意識調査の分析 ・児童の意識調査の比較 ・単元末テストの比較	・授業評価 【肯定的評価 80%以上】 ・児童の意識調査 【肯定的評価 80%以上】 ・児童の単元末テスト正答率 【低 88%中 85%高 82%】
イ「聴いて問い返す」「聴いて考える」場を設定することで児童が学びの深まりを感じられるようにする	・授業のねらいを達成できているかどうか事前と事後の意識調査の比較。	・授業評価 【肯定的評価 80%以上】 ・児童の達成率 【80%以上】

2 検証計画

①各種調査実施による現状分析（7月中旬・11月下旬）

○児童意識調査の実施，現状把握及び取組内容改善

②授業研究による継続分析（5月～12月）

○学年1提案，示範授業で一人1授業提案する。低・中・高・特支で全体研1，ブロック研1提案する。年間全体研3回，ブロック研3回実施。学年で協議会の司会を担当する。

○協議及び講師の指導に基づく授業改善，情報収集，資料整理及び修正する。

③理論研修，指導力向上演習等実施による分析（5月～10月）

○講師の指導に基づく指導案検討

○資料整理及び研修内容修正

3 校内研修計画

月 日	担当者	研修内容
4月3日（木）	研究主任	学習に関する共通理解事項
5月8日（木）	研究主任	理論研修（今後の研修の方向性について）
5月15日（木）	研究主任	理論研修（学習指導案について）
6月12日（木）	研究主任	全体研① 学習指導案検討
6月26日（木）	研究主任	全体研① 研究授業・協議会
7月3日（木）	研究主任	全体研② 学習指導案検討
7月10日（木）	研究主任	全体研② 研究授業・協議会
8月7日（木）	教務部	全国学力・標準学力の通過率から
8月21日（木）	研究主任	全体研③ 学習指導案検討
9月11日（木）	研究主任	全体研③ 研究授業・協議会
10月23日（木）	研究主任	全体研④ 学習指導案検討
11月20日（木）	研究主任	全体研④ 研究授業・協議会
11月27日（木）	研究主任	研究紀要について
12月4日（木）	研究主任	紀要作成
12月11日（木）	研究主任	紀要作成
12月18日（木）	研究主任	紀要作成
1月8日（木）	研究主任	研究紀要校正
2月12日（木）	研究主任	研修の振り返り，来年度に向けて，今後の計画
3月5日（木）	研究主任・各担当者	来年度に向けて，環境整備

※ ブロック研については，各ブロックで調整。